

市政概要説明会を開催しました

6月28日(火)から7月2日(土)までの5日間、現在の市政概要について市民のみなさんにご報告し、ご理解をいただくため、市内5会場で説明会を開催しました。

問合せ 秘書室 ☎(43)1111内線223
FAX(43)7088

市政概要説明要旨

▼平成23年度主要事業

財政の健全化に努めるとともに、総合振興計画に基づき中長期的視野をもって将来の幸手市の発展に繋がる事業を実施することなどを目指し、限られた財源を重点的かつ効率的に配分しました。

総務費関係／日本保健医療大学補助金、公債費負担適正化計画に基づく用地買戻し(土地開発公社分)、市役所本庁舎の耐震診断

市税のコンビニエンスストア納付の体制整備

民生費関係／子ども医療費・重度心身障害者医療費・ひとり親家庭等医療費の窓口払い無料化の導入、介護老人福祉施設整備事業

衛生費関係／子宮頸がん予防接種・インフルエンザ菌b型予防接種・小児用肺炎球菌予防接種の無料接種、ごみ減量化・再資源化を図るための事業

農林水産業費関係／農業振興のための各種補助、農業用水路や公共用水域の水質保全事業

商工費関係／商工業の育成強化のための補助、中小企業者の育成や設備の近代化などを図るための融資、土木費関係／橋梁の調査点検、大中落の未改修区間の整備のための設計

都市計画費関係／圏央道幸手インターチェンジ東側地区における産業団地整備事業、駅西口土地区画整理事業

消防費関係／消防団第4分団の消防ポンプ自動車の更新整備

教育費関係／中学校の特別教室に扇風機を設置、長倉小学校の校舎等改修工事、小学校5校にスロープを設置

その他／全18事業にわたる緊急雇用創出事業の実施

▼産業団地整備事業

埼玉県などの関係機関との調整や地域のみなさんとの合意の結果、平成23年2月17日、埼玉県との協働事業として整備を進めることとなる「先導モデル地区」の指定を受けました。併せて、埼玉県企業局による整備事業として、平成23年度から27年度までの5か年で、総額約161億7千万円の事業費が決定されました。

市としては、この事業により新たな産業集積や雇用創出を図りながら、市全体の活力向上と更なる地域振興を進めたいと考えています。

▼駅西口土地区画整理事業

埼玉県知事による事業認可を平成23年3月23日に取得しました。今年度は地権者のみなさんの代表者を選挙などで選出し、学識経験者と共に「土地区画整理審議会」を設置し、事業を進める体制づくりを行います。

また、現況測量など各種測量業務や事業啓発などの事業に対し、約2千万円の予算措置を行うなど、本格的に事業がスタートします。

▼日本保健医療大学関係

昨年開学した大学の2回目の入学式が、4月2日、アスカル幸手において、昨年度と同じ129名の新入学生を迎えて行われました。市内唯一の高等教育機関の誘致については、幸手市の総合振興計画に掲げられており、市の長年の懸案であり課題でもありました。この大学が順調に育つことにより、これからの幸手市の教育振興や地域の活性化などに大いに寄与できるものと考えています。

▼東埼玉総合病院誘致関係

平成24年5月の開院に向け、着々と建設工事が進められていきます。市としても、市民の利便性を考慮し、病院への進入路として、県道の並塚・幸手線から直接病院に入るように、市道の拡幅整備も今年度中には完了する予定となっています。

主な質問と回答

幸手駅西口土地 区画整理事業

Q 事業的には長期にわたりますが、総事業費はいくらか？

A 東口と西口を結ぶ自由通路、公園整備、公共下水道の設置、調整池、緑地などを合わせまして、102億7千5百万円です。この事業は20年と長期にわたる計画ですので、現在の財政状況を基に、各年度支出できる範囲で計画しています。5年ごとに見直しを行い、埼玉県の指導もあります。

産業団地整備事業

Q 近隣市町も含め、企業との成約率はどのくらいか？

A 近隣では久喜、白岡、騎西地区などにあるのですが、企業の立地については、成約している所と、成約していない所があると聞いています。平成20年度から、幸手市においてもアンケート

トを実施しております。現在、幸手市で把握しているところでは32社から関心をいただいています。

自主防災組織

Q 市内の自主防災組織が40数パーセントと低いと聞いたが、今年度の補助金は、どれぐらい確保されているのか？

A 平成22年10月現在の市の自主防災組織率は45.9%で、県の平均が80%を超えている中で、非常に低い数値となっています。平成23年度の予算は、82万円を計上しています。また、市の職員が出向いて説明会を行いますので、声をかけていただければと思います。

災害時要援護者 登録制度

Q 災害時要援護者の支援については、どのようなシステムなのか？

A 平成22年4月から災害時要援護者登録制度が

スタートしました。これは対象者が申出をしていただき登録をするもので、登録した情報については、災害時の安否確認、避難誘導などに使用されます。登録できる人は、75歳以上の高齢者のみの世帯、身体障害者手帳が1・2級の人、視覚障害1・2級の人、療養手帳をお持ちの人、また、該当しない人でも災害時に自力避難が困難な人になっています。現在の登録者は35名で、東日本大震災直後には31名と連絡がとれ、また、翌日には4名と連絡がとれ、全員の無事が確認されました。

市内の放射線量

Q 小中学校で計測した放射線量を、ホームページで公開しているというところで少し安心しているが、1回限りなのか？それとも定期的に計測するのか？

A 放射線量の参考数値ですが、市内小中学校・保育所を6月1日と7日に測定しました。また、毎日の放射線量を午前10時、午後4時に計測し、ホームページや公共施設にて公開してい

ます。福島原発の状況や、毎日の測定数値に大きな変化があれば再計測などを検討いたします。

その他

Q 過去、幸手は久喜より産業面など盛んでした。しかし、この30年間で差をつけられたのは、道路や下水道などのインフラの整備の遅れだと感じています。ですので、幸手駅西口土地区画整理事業につきまして、困難があっても推進していただきたい。久喜とのアクセスによって幸手の将来も広がると思う。産業団地については、目先の利益ではなく優良な企業を誘致してほしい。

A 幸手は優良農地、俗に言う美田が多かったため、その分久喜市と違いインフラ整備に遅れが出たと分析しています。また、幸手駅西口土地区画整理事業につきましては、倉松川の改修や、久喜新道の拡幅整備も含め、みなさんの声を大切にしながら進めていきます。産業団地の整備については、埼玉県から派遣された2人の

職員などとともに、優良企業の誘致を心がけながら本格的に用地買収に入っていきます。

